

スコアシート		竣工段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>			<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.3</b>	0.15	-	-	3.3
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.1.1 暗騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能		<b>3.0</b>	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能	遮音性能:TLD-50	<b>4.0</b>	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>	床:タイルカーペット、天井:石綿吸音板を採用	<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	-	-	2.6
<b>2.1 室温制御</b>		<b>2.2</b>	0.50	-	-	
2.1.1 室温設定		<b>1.0</b>	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		<b>3.0</b>	0.25	3.0	-	
4 ソーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38	3.0	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	-	-	3.6
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
3.1.1 昼光率	昼光率:2.24	<b>4.0</b>	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		<b>3.0</b>	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		<b>3.0</b>	1.00	3.0	-	
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.3.1 照度		<b>3.0</b>	1.00	3.0	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
<b>3.4 照明制御</b>	人感センサ・昼光センサ、リモコンスイッチによる制御	<b>5.0</b>	0.25	3.0	-	
<b>4 空気環境</b>		<b>4.6</b>	0.25	-	-	4.6
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
4.1.1 化学汚染物質	VOC発生のない建材、EMケーブル等の採用	<b>5.0</b>	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
4.2.1 換気量	30m <sup>3</sup> /h・人以上の仕様規定	<b>5.0</b>	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.33	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視	CO <sub>2</sub> 監視システムの採用	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	ビル全体の禁煙、喫煙ブース設置	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.0</b>	0.40	-	-	4.0
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.1.1 広さ・収納性		<b>3.0</b>	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	複数の通信事業者のスペース確保	<b>4.0</b>	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている	<b>5.0</b>	0.33	3.0	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1.2.1 広さ感・景観	天井高さ2.7m	<b>4.0</b>	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	喫煙コーナー、自販機等の設置スペースを確保	<b>5.0</b>	0.33	3.0	-	
3 内装計画		<b>3.0</b>	0.33	3.0	-	
<b>1.3 維持管理</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計	塩害に配慮した素材、塗材や表面処理の採用	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>4.0</b>	0.31	-	-	4.0
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.8</b>	0.48	-	-	
2.1.1 耐震性	分類 建基法20%増の耐震性	<b>4.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>4.3</b>	0.33	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数	分類 建基法20%増の耐震性	<b>4.0</b>	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	建築物のライフサイクルコストによる耐用年数	<b>5.0</b>	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	建築物のライフサイクルコストによる耐用年数	<b>5.0</b>	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	建築物のライフサイクルコストによる耐用年数	<b>4.0</b>	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	建築物のライフサイクルコストによる耐用年数	<b>4.0</b>	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	建築物のライフサイクルコストによる耐用年数	<b>4.0</b>	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-	-
2.4 信頼性			4.2	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	重要度に応じた系統運転が可能、地震時対策を行っている	5.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用、貯留ビッド、中水利用	5.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	非常用発電機の計画、水対策を考慮し7階に電源設備を配置	4.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	複数の通信手段を計画、精密機器の水対策として中間階に計画	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高:4.1m	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.104	4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			2.8	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		2.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		立地特性に基づいた計画。緑量の確保。開放エリア創出	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	建物意匠、形状、素材、色彩の工夫、周辺地域との連携	5.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物の熱負荷抑制		270MJ/m <sup>2</sup> ・年を目指す	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	雨水利用	3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光利用	3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=31.6	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
4.1	モニタリング	累積時間、エネルギー消費変動傾向等の履歴・分析が可能	4.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制	官公法及び政府実行計画に基づいた計画とされている	5.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			4.2	0.15	-	-	4.2
1.1	節水	節水型便器、自動水栓を採用	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水再利用			4.3	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	中水利用	5.0	0.67	-	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.63	-	-	4.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント	4.0	0.20	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント、木材、集成材	5.0	0.20	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアの採用、GL工法	5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤を使用していない	4.0	0.33	-	-	-
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		高炉セメントの利用等	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
3	交通負荷抑制	適切な駐車台数、荷捌きスペースを確保し等、渋滞緩和に配慮	5.0	0.33	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量の把握、回収スペースと設備設置	4.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害、日照障害の抑制			2.3	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	-
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明の設置なし、光害対策外ガイドラインに配慮した計画	5.0	0.70	-	-	-
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-